〔江戸名所圖會〕一神田橋　大手より神田への出口に架す、御門あり、昔此地に土井大炊侯の第宅ありし故に、又大炊殿橋とも號たるとなり、事跡合考に云く、昔は神田橋の外に茅商人あまた住す、今の八丁堀の茅場町是なり、又其後本所にも遷さるゝ、今本所の茅場町といふはこの故なりと云云、此御門の外の町をすべて神田と號く、

〔江戸砂子〕一小川町　鷹匠町　御旗本衆のゆきゝ多し

此處むかしは田畑なりしをうづみて、御旗本衆の屋敷に下さるゝ、畔道を直に小路になしたるゆへ、其道筋曲りて屋敷形のひづみありと云、又此所を錦の切と云は、小身衆なれども、御大切に思召との事なりとぞ、

外神田

〔御府內備考九外神田〕外神田は、神田川內なる神田町々に對して、私に稱せる名なり、此外神田町の內、昔より神田の地に隷して、其のまゝ町に取建し所もあれば、多は神田川內に置れし町を、後年鳥越、及下谷の地に移轉せられしなり、又他所より代地に移されしも少なからず、されば元より下谷鳥越に屬する町にはあらず、又下町にも附しがたし、

日本橋

〔江戸砂子〕一日本橋　南北にかゝる長凡二十八間

江府の中央と云、諸方への道法此はしを元とす、北の橋詰室町一丁目、此西側を尼店と云、尼崎屋又右衞門拜領やしきなれば也、ぬり物見世なり、此所に前店とて、庇より又庇をさしくだして見世をかまへ、荷馬の具、其外小間物を商ふ、東の方河岸は大船町也、肴店にて毎日魚市立、

〔慶長見聞集〕二一里づかつき給ふ事

日本橋は慶長八癸卯の年、江戸町わりの時節、新敷出來たる橋也、此橋の名を人間はかつて以て名付ず、天よりやふりけん、地よりや出けん、諸人一同に日本橋とよびぬること、きたいの不思議とさせたり、然に武州は凡日本東西の中國にあたれりと御諚有て、江城日本橋を一里塚のもとゝ、定め、三十六丁を道一里につもり、是より東のはて西のはて、五畿七道殘る所なく一